

氏名(本籍)	なか やま まな り 中山愛理(群馬県)
学位の種類	博士(図書館情報学)
学位記番号	博甲第5200号
学位授与年月日	平成21年9月30日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	図書館情報メディア研究科
学位論文題目	アメリカ公共図書館における館外サービスの歴史 1880年代から1920年代を中心に
主査	筑波大学教授 博士(文学) 綿 拔 豊 昭
副査	筑波大学教授 博士(政治学) 溝 上 智 恵 子
副査	筑波大学准教授 博士(教育学) 吉 田 右 子
副査	桃山学院大学教授 政治学修士・学術修士 山 本 順 一
副査	前明治大学教授 教育学修士 阪 田 蓉 子

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、1880年代から1920年代を中心にアメリカ公共図書館における館外サービスの歴史について論じたものである。

本論文の構成と内容は以下の通りである。

第1章 序論と課題

本章では、アメリカにおける巡回文庫の導入過程の検討とアメリカ図書館における馬車図書館および自動車図書館の導入過程の検討という課題をかけた、これまでの研究で扱われてこなかった1880年代から1920年代を中心にアメリカ公共図書館における図書館活動の実態を館外サービスの一端から明らかにする、という研究目的を述べる。また本論文で用いる用語と概念、先行研究、研究方法について述べる。

第2章 巡回文庫の導入と展開 :1892年 - 1904年

本章では、1892年に開始され、1904年にその形態が変化する巡回文庫の実態について、先行研究でこれまで取り上げられてこなかった州法を軸として論じる。女性クラブが巡回文庫の導入を働きかけ、自ら巡回文庫の運営を担ったことを明らかにする。また州の立法活動の結果、多くの州で類似する内容を含む、巡回文庫に関する法律を制定したことを明らかにする。

第3章 各州で取り組まれた巡回文庫の実態

本章では、アメリカ各州の巡回文庫に関する法律に基づいた、州の巡回文庫の実施状況を、ミシガン州、ウィスコン州、アイオワ州の事例から把握する。この3州の巡回文庫の導入、運営状況、回送した図書の実態の分析から、各州の巡回文庫の特徴について明らかにする。

第4章 馬車図書館・自動車図書館の導入とティッコム館長 :1901年 - 1932年

本章では、まず巡回文庫から馬車図書館へと形態が変化した要因について考察する。そして馬車図書館をアメリカにおいて最初に導入したメリーランド州ワシントン・カウンティを事例として、カウンティ・ライブラリー・システムの導入経緯などを明らかにする。次に馬車図書館から自動車図書館へと移行する経緯と背景について考察する。関連して、馬車図書館および自動車図書館を導入したメアリー・L・ティッ

コムの経歴などについて明らかにする。

第5章 ALAの取り組みと館外サービスの充実に向けて

本章では、1925年、ALAに設置された図書館エクステンションに関する委員会がどのような活動をしたか、また各図書館がどのように取り組んだかを検討し、アメリカ公共図書館で、図書館エクステンションがどのように展開していったかを明らかにする。また1929年にはじまる大恐慌のもとでの図書館エクステンションの発展についても明らかにする。

第6章 戦時図書館エクステンションサービスから戦後図書館エクステンションサービスの充実へ

本章では、第二次世界大戦中の図書館エクステンションが、どのようなものであったかを明らかにし、それが戦後にどのように変化したかについて明らかにする。

第7章 図書館エクステンションサービスからアウトリーチサービスへ

図書館エクステンションが、社会の変化に合わせて、アウトリーチサービスになっていった過程を明らかにするとともに、現在に至るまでのアウトリーチサービスの変遷について明らかにする。

第8章 結論

本章では、これまでの各章で明らかにした点をまとめる。すなわち、巡回文庫の導入から、馬車図書館、自動車図書館へと形態が変化していく過程等を述べ、さらに、こうした巡回文庫、馬車図書館、自動車図書館などによるサービスを「図書館エクステンション」と称するようになってからの展開等、それがその当時の公共図書館をめぐる社会経済的な環境が同様な背景を持ちながらも切羽詰まった部分を持つアウトリーチサービスと呼ばれる新たなサービスを生み出すようになるまでと現在に至るまでの展開等について述べ、以上をもってアメリカ公共図書館における館外サービスの歴史の一端について明らかにする。

以上の他に巻末に「アメリカ公共図書館年表」が付されている。

審査の結果の要旨

本論文は、1880年代から1920年代を中心に、現代までを視野に入れたアメリカ公共図書館における館外サービスの歴史について論じたもので、アメリカの図書館文化史研究である。アメリカ公共図書館における館外サービスについて通史的に明らかにし、これまでとりあげられることのなかった注目すべき史実をおさえて論じており、それは妥当なものと判断される。

巡回文庫などの館外サービスについてその実態や展開等を明らかにすることは、アメリカの図書館文化史を述べる上で看過できないが、日本のみならず、アメリカにおいても、これまで事例研究が中心であり、通史のあるいは横断的な研究はなされてこなかった。この点において、本研究は重要課題に取り組んでおり、評価できる。

本論文は、実地調査等によって収集された文献史料をもとに、実証的にその実態や展開を明らかにするものであり、着実な研究方法が用いられている。

このように先行研究をふまえ、重要な文献史料をもちい、実証的にアメリカ公共図書館における館外サービスの歴史について論じ、これまで不明であったことを明らかにした本論文は、信頼性のある、あらたな知見がえられるものと判断される。

以下、内容について具体的に批評する。

「第1章 序論と課題」では、1880年代から1920年代を中心にアメリカ公共図書館における図書館活動の実態を館外サービスの一端から明らかにする、という研究目的が述べられている。先に述べたように、アメリカ図書館文化史研究において重要課題といえる。

また本論文で用いる用語と概念の説明がなされる。妥当なものである。

また先行研究を包括的に調査するとともに、それらの研究成果について、本研究のテーマを踏まえ適切に評価している。

研究方法について先に述べたように、実証的方法で問題ない。

「第2章 巡回文庫の導入と展開 :1892年－1904年」では、先行研究でこれまで取り上げられてこなかった州法を軸として、巡回文庫について論じられている。さらに女性クラブが巡回文庫の導入を働きかけ、自ら巡回文庫の運営を担ったことを明らかにする。図書館関係者からの働きかけのみではなく、女性クラブの働きかけもあったため、多くの州で類似する内容を含む、巡回文庫に関する法律を制定したことも明らかにする。女性クラブに注目した点が評価される。

「第3章 各州で取り組まれた巡回文庫の実態」では、アメリカ各州の巡回文庫に関する法律に基づいた、州の巡回文庫の実施状況について述べる。オハイオ州について言及した上でミシガン州、ウィスコン州、アイオワ州の事例に基づき明らかにする。3例という、事例の少なさと、地理的な偏在が問題となろう。今後のさらなる資料調査がのぞまれる。しかし、この3州の実態の分析については、妥当と思われる。アメリカにおいて、図書館サービスの推進役を担ってきた州に着目して、ほぼ全州の巡回文庫の状況を明らかにした点は評価される。

「第4章 馬車図書館・自動車図書館の導入とティッコム館長 :1901年－1932年」は、馬車図書館および自動車図書館を導入したメアリー・L・ティッコムに注目して、馬車図書館・自動車図書館の導入について述べたところが評価される。

「第5章 ALAの取り組みと館外サービスの充実に向けて」および「第6章 戦時図書館エクステンションサービスから戦後図書館エクステンションサービスの充実へ」では、巡回文庫、馬車図書館、自動車図書館などによるサービスをアメリカ図書館協会が「図書館エクステンション」として全米レベルで取り組むようになった過程が述べられ、大恐慌や戦争を契機に館外サービスが拡大していく様子が明らかにされている。通史的側面がよくあらわれている部分である。

「第7章 図書館エクステンションサービスからアウトリーチサービスへ」では、図書館エクステンションが、「アウトリーチサービス」と称されるようになっていった過程について、現在に至るまでのアウトリーチサービスの変遷について明らかにされている。これも重要な点はおさえられていると思われるが、2次資料が中心になっているので、今後の実証的な研究の深まりに期待したい。

「第8章 結論」では、本論文の核をなす、巡回文庫の導入から、馬車図書館、自動車図書館へと変化していく過程等を述べ、さらに、その後の「図書館エクステンション」「図書館アウトリーチサービス」について述べられている。アメリカ公共図書館における館外サービスが通史的に述べられ、わかりやすくまとめられている。

よって著者は、博士（図書館情報学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。